

衣替え

6月は、衣替えの季節です。

梅雨入りしている本州の方では、衣替えを待つまでもなく、既に夏バージョンの軽装に切り替わっていることと思います。

しかし、北海道の方は、今まさに清々しい初夏の香りが一杯で、衣替えに相應しい季節の到来とって良いでしょう。

もともと衣替えの習慣は、平安時代の宮中の行事として始まったものだそうです。

しかし、当時は今と違って旧暦の4月1日と10月1日に衣替えが行われていました。

また、時代が下がると共に、衣替えは単に衣装を替えるということだけではなく、鎌倉時代になると調度品まで取り替えるようになったといわれています。

明治時代に入ると、時の政府によって、役人、軍人、警察官に制服が定められ、併せて、新暦の6月には夏の制服に、10月には冬の制服へと衣替えが行われることとなりました。その後、この衣替えは学生服に、更に一般の人たちへも広がって今日に至っているというわけです。

ただ、最近はクールビズが盛んに提唱されており、オフィスでの服装も随分と自由になってきました。特に今年は、節電ということもあり、かなり早い段階から軽装に移っている職場もあるようです。私のオフィスでも、5月の中旬からクールビズを実施しています。もっとも、私の場合はノーネクタイというだけのことですが、それでも、首を締め付けているものがなくなった分、開放感は高まりますね。

昔は、ネクタイは必需品で、首筋に汗を流しながらもネクタイはしていたものです。それが当たり前だと思っていたのですが、クールビズという響きのいい言葉が出てきて、あっという間に変わってきました。

今までは仕方がないと我慢していたことでも、ちょっと目先を変えたり、考え方を試してみると、そのちょっとしたことが大きな変化に繋がるのが良くあります。

ネクタイからの解放というのは小さな事ですが、世の中で「これが当たり前」と思っていることも、案外、このネクタイ程度のことかも知れません。

(塾頭 吉田 洋一)